

栄光

説教

『不用意に従う』

エレミヤ書1章4～8節
マルコによる福音書1章16～20節

狩野進之佑

説教……………	1
特集・子どもたちと共に歩む教会…	2
転入会 おめでと!	
仲山孝樹兄……………	4
仲山かおり姉……………	4
馬場茂兄……………	5
馬場泰子姉……………	5
仲山亜砂奈姉……………	6
追悼・	
鈴木康兄……………	6
伝道師の書き込み…	7
牧師の書斎から…	7
長老のファイル…	8

「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしよう」。こんな言葉を掛けられてついて行こうと思う人は普通いないでしょう。だからこそ、この言葉はまさしく主イエスの声そのものを写し取ったものと言えます。ここに力があつたからこそ、田舎の普通の漁師だった男たちはこの御言葉に弾かれるようにして、主イエスの後に従っていく弟子たちになったのです。彼らはそれまでの生活を支えてきた仕事を放り出してでも、自分の父親を捨ててでも、主イエスに従います。仕事も、肉親も、富や地位も、すべてを捨てて主イエスに従っていくのです。

しかし、このように従う姿勢は、弟子たちのすばらしさを示すものではありません。このすべてを捨てた弟子たちが、十字架の前で命惜しさに主イエスから離れ去るのです。彼らは自分たちが主イエスについていくといふことの意味を、決して分かつてはいないのです。彼らが従つたことは、別にならぬ素晴らしい信仰心を与えられていたからではなく、彼らの軽率さの表れに過ぎないのです。彼らの従い方はあまりにも不用意でした。

で従うか、あるいは拒否するか。そんなことはそもそも些細なことなのです。そういう不用意を知つたうえで神は召されるのです。私自身もまた、こういう不用意な者に対する召しによつて、伝道者として選び出された身であると思ひます。私は結局、紆余曲折を経て卒業までに8年かかりました。一度神学校を離れ、アルバイトをしながら過ごした時期があります。その間、本当に自分は牧師になりたかつたのか、と。結局何か惰性に過ぎないものだったのではなかつたか、と。こうしてこの場に立ちながらも、実のところどうなのか、わからないでいます。私にはこの道しかないのだ、という思いと共に、どこかで今の自分にとって一番楽な道を選んでいくに過ぎないのではないかという思いがあります。召しにふさわしいふるまいを自分は取れていないと思われまします。不用意に不用意を重ねつつ、今自分は歩んでいないかと。

決心してついてくることよりもっと大事なことが含まれていいます。主イエスご自身が弟子たちに対して「人間をとる漁師にしよう」とおっしゃっていることです。主イエスご自身の決意がここにあるのです。学があるわけでもない、強い信念があるのでもない、ふさわしいと言えるものでない、そんなものたちをしかし、「私は人間をとる漁師にするのだ」とそういつてこの漁師たちを召し出すのです。

私たちの努力や決断などよりも先に、神が決断して、私たちを召し出します。私たちは自分の理想でなく、神の理想に生きるのです。私たち一人一人がそういう召命を受けています。神の決断する未来の姿を、私たちはそれぞれに持っています。だから、私たちは不用意に従つてよいし、不用意にでも従うべきでしょう。そのように従つていく者を神様は決して見捨てません。私たちの軽率さよりも確かな神様の決断が、私たちを変えてくださいます。だから、神様が私たちにどのような理想を抱いているのか、ともに求めましょう。



子どもたちと共に歩む教会

幼子からお年寄りまでが共に神様を賛美、礼拝する場所が教会です。

子どもたちの姿は私たちに元気をくれます。

そして時にはその素朴な疑問に、大人の私たちがはっとさせられ、新たな気づきを与えられます。

さあ、今月も一緒に神様を見上げて歩みましょう！



CS生徒へ伝えたいこと

石室優子

私は幼い頃の記憶を比較的鮮明に覚えている人間のようです。

現在CS教師として説教をさせていたでいています。説教準備をしていると、自分が子ども時代と同じ箇所を学んだ時、どのような感情を抱いたかをほぼ全て思い出すことができます。幼児から成人するまでの膨大な説教の記憶です。普段はすっかり忘れていますが、さあどんな説教をしようかしら、と考え始めると、魔法のように当時の感情が蘇ってきます。

私は物事を深刻に、繊細に、悲観的に感じる子どもでした。CSの先生方には、どんなに心を救っていただいたかわかりません。

今、若いCS教師たちと熱い説教論になることがあります。彼らは聡明で、勉強熱心で、私は彼らを尊敬しています。彼らは歳上の私にも、新米教師同士ということともあり忌憚のない批評もしてく

ます。「優子さんの説教は子どもには重過ぎる」という意見もあり、非常に参考になります。

子どもは教会に何をしに来ているのでしょうか。遊びに？ 習慣として？ それもあるでしょう。しかし自分では気づいていなくとも、無意識のなかで、重い問題と向き合い、教会に救いの手を求めている、生まれてきた目的を主に問うている面は必ずあります。礼拝以外では子どもにも愉快地に振舞っている私ですが、子どもたちが何かにつかつた時、解決はできずとも「一緒に主に祈ってみよう」と言える準備があることを、説教では伝えたいのです。

私の説教は深刻過ぎると評した若きCS教師も、子どもが深刻で悲観性を持ち合わせている存在であることなど、私以上に理解しているのです。それでもなお、「優子さんの説教は重い」と言える、我々教師の信頼関係を大切にしたいです。

子どもたちがもしもこの先、教会から離れることがあったとしても、この毎日曜のことを忘れることはない私は信じています。

神童

安部隆雄

海外ミステリのペーパーバックにはIQの高い天才、神童等の傑出したキャラクターがよく登場します。ほんの少しご紹介しますと、

生まれつき知能指数が異常に高く (Off-the-chart IQ) 5才でのロンドン・グロブ劇場の子役デビュー時、一晩で出演者全員の台詞を覚え、稽古の初日には各人に合図を出していた。7才では月1ヶ国のペースで外国語をマスターし、独学で解剖学と生理学の本を読破。10才になると最新鋭の医療機器を自在に操るといった文字どおりの神童だった少女は、あまりの知能ゆえに友達ができず、いじめの対象にされていた。普通の子と違うだけで「英知の呪い」(The Curse of Brilliance) を背負っていた…と、これは『ダビンチ・コード』の作者ダン・ブラウンの『インフェルノ』に登場する女医シエナ・ブルックスのプロフィールです。

フィクションなのでどうにでも書けるとも言えますが、作者はこうした神童は現実にくらもいると主人公の口を借り指摘しています。

何度か来日したことのあるハーバード大学の宇宙物理学者リサ・ランドール博士も、少女時代は周知から変人扱いされて辛かったとこぼしていました。高い知能指数の持ち主は、特に子どもの頃は、人からうらやまれる反面、生きづらいたくが多いようです。自分は大きな欠陥を抱えた人間だと思ふことさえあるとか。「英知の呪い」は並外れて聡明なるがゆえの災いでしょうか。また、英国のゴードン・ブラウン元首相も小学生時代に英才教育を受け、2年飛び級でエディンバラ大学に入ったのは16才でしたが「こんなバカげたことはない」と嘆いたといひます。少年時代に同年令の友達がいなかったからです。

天才・神童と同様、私にはCSの子供達は神さまが送って下さった天使のように映るのです。そう見られた子供達は迷惑でしょうけど、あのラファエロが描いた二人のあどけない天使の絵のような。

いつまでも続いて欲しい教会

角田牧子

子どもが生まれてもうすく12年、その間ずっと地下の部屋で礼拝を守っている私のことをご存知ではない方も増えているのではないのでしょうか？

私は、何世代か続くクリスチャンホームに育ち、経堂北教会には子どものころから通っています。

私の主人も経堂北教会の教会員で、双方の両親共に経堂北教会に所属しています。他にも親戚がたたくさんこの教会に在籍しております。

私は小さいころから教会で日曜日を過ごしていましたし、現在小学生の2人の子どもたちも教会で午前中を過ごすことが当たり前になっています。

私は、以前は張り切って教会学校の教師をしていたこともありましたが、今となっては前述の通り影薄い信仰生活を送っております。最近では、子どもたちが教会にい

るから自分も行かないと、思うことも増えつつあるくらいです。

学校や習い事のように「行かなくてはいけない場所」ではなく、自分が進んで通う教会学校は、きつと子どもたちにとって居心地が良い場所になっているのだと思います。この居心地の良さは、神様を中心とした教会員の方々が家族のように接してくださっているからだと思います。

私たちの教会生活はとても我が儘です。楽しく居心地の良い時は教会にいる時間が長くなり、忙しくなり神様の言葉が素直に聞けなくなると教会から足が遠のいてしまいます。今は何の抵抗もなく教会学校に通っている子どもたちですが、これから成長するにつれ、教会よりも大事にしたいことができ、離れてしまうことがあるかもしれませぬ。

神様はどんな時でも子どもたちを見守ってくださっていることは伝え続け、それぞれのペースで教会とつながり、いつか自分から神様を信じて歩む道を選んでくれたら嬉しいです。

転入会おめでとう！

転入会にあたって

仲山孝樹

6月16日、転入会式にて経堂北教会に所属させていただくことになりました。

私とキリスト教との出会いは高校のころになります。洗礼を受ける前は神様の存在を正直、信じていませんでした。両親が洗礼を受けた際も他人事のように思っていました。

その後、結婚し、妻が洗礼を受けた洗礼式で、2人の子供の姿を見て、自分の中で何かが変わるのを感じました。その時に自分でも不思議なほど自然と神様の存在を感じ、洗礼を受けようと思ったのです。洗礼を受けたからといって、突然清らかな人間になるといふことは、ありませんでした。

しかし、神様から救いの手を差し出され、その手を私も握り返したことが、私の中で大きな喜びと

なっています。そして、その喜びを日々の祈りの中ではつきりと感じていきます。

私が印象に残っている御言葉があります。

「神は、実に、そのひとり子をお与えになつたほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである」(ヨハネの福音書第3章16節)。

これからも何かと自分の前に壁が立ちただかと思えますが、強い信仰を持ってこれを乗り越えていこうと思えます。

神様のお導きに感謝するとともに、温かく迎えてくださった皆さまに感謝申しあげます。日々、神様の息吹を感じながら、感謝し、歩んでいきたいと思えます。

これからもどうぞよろしくお願ひいたします。



信じるものは救われる

仲山かおり

私が神様を信じるきっかけになったのは、偶然の重なりにより、神様のお導きを感じたからです。

まだ、神様を信じる前のこと、主人の両親と一緒に、興味半分で礼拝に行ったことが始まりでした。その時、私は身内や仕事のこととで悩みを抱えていました。たまたま、礼拝に行く道中で、身内の悩みを両親が相談に乗ってください、良い方向へ進みました。

また、その時の牧師先生の御言葉が印象に残ったのです。

「あなたがたを迫害する者を祝福しなさい。祝福すべきであつて、のろつてはいけません」(ローマ人への手紙第12章14節)。

「悪に負けてはいけません。かえつて、善をもって悪に打ち勝ちなさい」(同21節)。

当時、私は仕事の人間関係がうまくいっておらず、一人の先輩女性から、冷たい対応をされていま

した。上司に相談をしても何もしてくれず、我慢するしかなく、精神的に辛い状況でした。

御言葉を聞いたとき、苦しんでいるのに、そんなことはできないはずがないと自分本位でしたが、ふと、そういう考えもあるのだ、信じて実行してみようかなと、少し気持ちが楽になったのです。

その後、辛い日々は変わりませんでした。仕事は粛々と行い、その女性に無視をされても、挨拶は心がけ、自分なりに善をもって接していました。そうしているうちに、別部署に配属され、良い環境で仕事ができるようになったのです。

あの時、信じたからこそ救われたのだと、神様の愛に感謝しかありません。これからも困難なことはあるかと思いますが、初心を忘れず、神様の慈悲に感謝し、信仰生活を続けていきたいと思ひます。



転入会にあたって

馬場 茂

私が初めて教会に行ったのは、40年も前、米国で近所の老夫婦に誘われた時のことです。日曜礼拝ですがざわざわしていて不思議でしたが、その朝に教会に来る途中で、教会員の方が交通事故で亡くなったということです。その道は私の通り道と違いますが、典型的な田舎の一本道です。どうも即死で、悲劇的な最期だったようです。牧師先生は、その方は素晴らしい方だった……と言われ、最後に祈りを捧げました。そこから帰る時に驚いたのは、七色の虹が足もとまで見えるように立っていたことです。出席していた人々もこんなきれいな虹を見たことがないと言っていました。不思議ですが、天に召される時は、こうありたいものだと思いました。一方、そんな奇特な人なら、事故から救い出るのが神様ではないかとも、その時は思いましたが、聖書を読むと、

それもあるべしと思うようになり
ました。

私はこれまで、数人のきわめて親しい方の死に面してきました。子供がいなせいで、私を実の子供のように可愛がってくれた隣のおじさんもその一人です。老衰で静かに亡くなったのですが、この1カ月、誰とも口をきいたことがないという状態でした。私が見舞いに行った時、春になったら〇〇へ連れて行くから頑張つてね、という私に、私の名前を（おじさんが使うだけの私のニックネームで）呼んで、もう駄目だ……と言つて少し話をしました。亡くなる2日ほど前のことです。突然に亡くなるよりは良いと思います。奥さんを亡くされてから2年後のことです。

私は大体において幸せな人生を送ってきました。苦しい時がない訳ではありません。自分の方が正しいと仲間からも支持されながらも、それに反する地位の高い人に対して、特に悔しく思います。そんな時は「この人に災いあれ」と、聖書に反して祈ります、アーメン。

でもクリスチャン

馬場泰子

クリスチャンになりたいともなれるとも考えた事がありませんでした。

イギリスでの仕事の帰途、イスラエルを旅することになり、キリスト教を学びたいと思いました。親友の教会で聖書の学びを出来るように頼みましたが、それは何とも眠くて受講を後悔しました。

さて、イスラエルは食物、特に果物が美味しく朝日の美しい国でした。ガイドのおじさんから「あなたはクリスチャンになる」と特別待遇を受け、ガイドの途中でキリストが手をついた岩を触つてくると言うので抜け出して触つてくることが出来ました。話の種になるとしか思いませんでした。その後、キリストの生まれた馬小屋？を訪れると赤チャンが生まれた時の臭いがしたので、隣りの女性に「何か臭うか」ときいたら「いいえ。あなたは祝福されて

いる」と言われたのです。

帰国すると（今は亡き）牧師から「今度は大変おもしろい学びがあるのでは非」と誘われ、友人を誘つて「只より高いものはないね」と言いながら受講しました。コースの終り頃、突然きかれました。

「〇〇さん、天国に行きたくないですか」「そりゃあ、行けるものなら行きたいです」「そうですか」と牧師が契約書を2枚持参しました。こうして私たち二人はクリスチャンになったのです。帰宅して、「今日ね、クリスチャンになったから」と言うと夫は大変驚き、「どんな宗教にもそれなりの調和とときりがあるから、あなたはそれを乱して迷惑をかけるから、辞めときなさい」。「大丈夫、宗教学者の牧師が勧めて許可したのだから、あなたの意見は却下」。しかしながら、そののち私が思い知ることもありまして。

この話は1999年から始まりました。今も尚、私はこれでもクリスチャンでしかありません。こんな私を転入会させて戴きましてありがとうございます。どうぞ宜しくお願いいたします。

転入会に感謝を込めて

仲山亜砂奈

6月16日に転入会式を行って頂きましたこと、神様のお導きに感謝いたします。

私はキリスト教の幼稚園と大学に通ったり、小学生の頃に経堂北教会のサマーキャンプに1回参加しました。家族にクリスマスチャンがないくて信仰のない日々でした。両親と祖母が受洗した後、祖母が危篤になりました。知らせを聞いて乗った電車に兄がいました。タクシーで駆けつけた父と病院の玄関で一緒になり、3人で引き寄せられるように病室へ向かいました。馬場泰子先生が偶然病院の近くにいらして、母のそばにいてくださいました。心肺停止から医師の懸命な心臓マッサージのおかげで息を吹き返しました。みんなでお祈りして祖母にパワーを送りました。両親と祖母が馬場先生をきっかけに受洗したことを思い出しました。祖母の驚異的な回復

や偶然な奇跡的で、神様の存在を感じました。馬場先生が「クリスマスチャンにならない？」と声をかけてくださいました。祖母を助けた一心で「はい」と即答しました。目の前が明るくなりました。お見舞いに行つて、祖母と一緒に祈りする日々を過ごしました。祖母の最期は映画より素敵でした。苦しむことなく、家族で見守ることができて祖母も私たちも幸せでした。

経堂北教会の礼拝に初めて出席した日は私の誕生日でした。最初は心細い気持ちもありましたが、どの教会の礼拝でも信じる神様と聖書は同じであると思えました。ふとした瞬間に反省や気づきや良い案が浮かぶことがあります。聖霊が働きかけているのを感じています。

至らぬ点が多くて修業している日々ですが、毎朝生きていくことに感謝して少しでも用いられる人になりたいと思っています。これからどうぞよろしくお願いたします。

追悼

日に新たに

故・
鈴木 康兄

鈴木康さんは5月9日に天に召されました。15日に90歳の誕生日を迎える直前のことでした。

母教会の相愛教会（三鷹市）で青年時代、鈴木御夫妻にはたいへんお世話になりました。井の頭公園のほとりにあった社宅に何度もお邪魔しました。書斎には、

1956年の南極観測遠征に鈴木さんが加わった際、乗船した宗谷の写真が飾ってありました。

陸軍幼年学校で同期生だった大木英夫先生から教えられたというニーバーの祈りは、鈴木さんの座右の銘でした。

「神よ、変えることのできるものについて、それを変えるだけの勇氣をわれらに与えたまえ。変えることのできないものについては、それを受けいれるだけの冷静さを与えたまえ。そして、変える

ことのできるものと、変えることのできないものとを、識別する知恵を与えたまえ」。

転会の際、「今や過去のしがらみを捨て原点に立ち戻つて、新たな信仰の歩みを始めたいと思います……遅ればせながら皆様と相携えて、主のみ栄えのために残された余生を捧げたいと存ずる次第です」との一文を残しています。

鈴木さんのもう一つの座右の銘である中国古典の『大学』によるなら、「まことに日に新たに、日に新たに、又日に新たなり」ということとなります。

鈴木さんを捕らえ、生涯をかけて従うように御国への道を開いてくださった主イエス・キリストによって、終わりの日の復活を信じ、永遠の命に生きました。キリストによって罪と死に対する勝利をたまり、キリストのものと確かにしていただいて、鈴木さんは御国へと旅立ちました。愛唱讃美歌Ⅱ 219番の3節の歌詞、「伝えよ、その福音を、ひろめよ、きよきみわざを、たたえよ、こえのかざり」の通りの御生涯でした。

（岸 俊彦）

伝道師の書き込み

6月10日から14日まで、お時間を頂いて新任教師オリエンテーションに出席させていただきました。

これは教団の新任教師が伝道師である間に、つまり3年の内に1度は行くように、とされている会です。今年は諸事情で前年・前々年に参加できなかった方も含め、新任の教師34人が集まる会となりました。ハートピア熱海という温泉旅館が会場でした。窓から熱海

の海を見下ろす高台にあるホテルは、新任教師オリエンテーションという字面の堅さに似つかわしくない、なんだか小綺麗な場所です。ちよつと驚きました。

驚いたことをもうひとつ。学びの時は意外に短く、プログラム全体の半分ほど。むしろ自由時間がずいぶん確保されていたのに驚きました。神学生時代に先輩から噂を聞いてはいたのですが、まさか「交わりの時」などという時間が設定されているとは夢にも思いませんでした。主題が「伝道を共に

担う教団の教師」と掲げられていましたが、この会を通じて新たな教師間の関係を作ろうという意識もあるのかな、と感じました。終始和やかで和気藹々とした会という印象でした。

しかしこの和気藹々が人見知りの私には実にしんどい。寝泊まりも知らない人と一緒に気疲れは癒されないと、1日目の終わりには私のなげなしの社交的な意欲は失われておりました。神学校の同級生たちが夜遅くまで語らう中、早々に自分の寢床に引き返す3日

間でした。社交的な人って本当にすごい、と痛感しました。

ただ、伝道が各個教会だけでなく、共に担わなければならない時代なのは確か。十数人の教会ではどんなにやりたくても、働き手が少ないためにできないことは多いでしょう。実際的に教会間のネットワークが教師に依る所が大きいことを思うと、そうそう教師同士の関係を放り出すわけにもいかず、これも大事なことなんだな、と思わされながら帰途につきました。(狩野進之佑)

牧師の書斎から



6月後半から7月前半まで、教団の会議が続きます。1週間で同じ弁当を3回食べました。さすがに朝昼晩ではありません。昼2回、夜1回です。

一つは教団年金局理事会に関わるもの。信徒の方がほとんどその働きを担ってくださっています。その目的は二つです。一つは、私たちの教会が既に行っているように、いかに献金に協力していただ

けるか。もう一つは積立金をいかに運用するか。後者はかなり専門的なのでほとんど静聴しています。今時、リスクなしで1〜2%の利益を生むなんて考えられませんか。教会の基金を預けられたらと思います。日常の業務としては掛金の徴収と年金の給付です。教会と比べ莫大なお金が動きます。注意深い3人の職員が担当しています。隠退教師やその家族からの相談や、時に人捜しまでします。

もう一つは教団伝道対策検討委員会に関わるもの。経堂北教会の

年間テーマで掲げた「共に祈り、伝え、献げよう」は、教会総会で説明したように教団伝道推進基本方針からとつていきます。この基本方針を具体的にどのように展開するか、その協議が続いています。7月8日、9日に行われる教団常議員会に議案を提案するためです。まず議案を可決しなければなりません。次にそれが全教会で実行されなければ何にもなりません。教会の年間テーマも、議案が可決されたら、その議案に応じて具体的な展開ができるでしょう。

教区議長としての仕事も続いています。第1回常置委員会が済み、委員会が組織され、活動が始まりました。教師辞任と招聘など、教区で扱う教務もようやく一段落しました。会計の処理も日常的にあります。3人の教区事務職員が毎日よく働いてくれます。これに社会保険事務、教会との連絡が加わります。教区三役はいつでも代わりますが、事務職員は不可能です。出かける毎日、教会の留守番を引き受けてくれる狩野進之佑伝道師に助けられています。(岸俊彦)

個人消息



長老のファイル



6月の長老会では、はじめに、仲山亜砂奈さん、仲山孝樹さん、仲山かおりさん、馬場茂さん、馬場泰子さんの5名の転入会の承認を行いました。転会を認めるカヴェナント教会からの薦書を確認し、一人ひとりに転会についての思いなどを伺い、転入会を承認しました。教団外から来られる時は「転入会」、教団から来られる場合には「転会」というのですが、

神様への信仰とともに、教団の教憲教規に従って教会を支えていくことが大切なことであると改めて思いました。新しい仲間を迎えられたことに感謝です。

また、長老会では、牧師から会員などの消息の報告や、会計の報告、教会初夏の集い、振起日礼拝、教会バザーなどの予定について話し合われました。会計については、今年度から狩野進之佑伝道師を迎えたことで、その分をしっかりと献金で支えていく必要が話されました。いろいろなことが話し合われ

る中で、教団は自由祈祷が基本であること、カトリックでは、基本的に成文祈祷であることを学びました。岸牧師から、「開式の祈り」「聖霊の照らしを求める祈り」「とりなしの祈り」「奉献と祈り」の四つを区別して、司式者は重ならないように祈ることが必要であることを教えられました。祈りの内容を意識して司式をしていかなければと改めて思いました。

今年度、私は伝道委員会の担当になりました。様々な教会の行事でしっかりと伝道していけるように、伝道委員の方々とともに取り組んで参りたいと思います。と同時に、一人ひとりが日々の生活の中でできる伝道を意識して取り組むことが大切であると思います。自分も身近なところから、伝道の種を蒔いていきたいと思っています。今年度も宜しくお願いします。

さて、異常に暑い春から、梅雨入りになり、心身共になかなか環境についていけない方もいらっしゃるかと思います。どうぞご自愛ください。また、お互いに気遣い合いたいものです。(大友太郎)

掲示板



編集後記



▽新しい仲間も増え、伝道にも励みましょう。(沢田)

「栄 光」2019年7月号
 日本基督教団 経堂北教会
 〒156-0051 東京都世田谷区宮坂 3-21-11
 電話：03-3428-5029 / FAX：03-3428-5038
 牧師：岸 俊彦 伝道師：狩野進之佑
 編集：栄光編集委員会
 Email：kyodon@nifty.com
 HP：http://kyodokita.life.cocan.jp